

# 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会議事要旨(平成20年度 第1回)

1. 開催日時：平成20年8月7日(木) 14:00~15:10

2. 場所：沖縄総合事務局 2階 共用会議室C

3. 出席者：委員 有住 康則 琉球大学工学部教授  
池田 孝之 琉球大学工学部教授  
大城 勇夫 琉球銀行頭取  
大城 常夫 琉球大学名誉教授  
立原 一憲 琉球大学理学部准教授  
(敬称略：五十音順)

沖縄総合事務局 次長、開発建設部長、企画調整官 ほか

4. 事務局説明：『沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会規則改正について』

・事業評価監視委員会規則を一部改正する必要がある。

改正理由は、参考資料-1のとおり国土交通事務次官より7月1日付「国土交通省所管公共事業の事業評価実施要領の策定について」改定の通知があったことから、「沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会規則」第一条を改正したい。

『平成20年度沖縄総合事務局開発建設部事業評価対象事業について』

・対象事業は、再評価は、公園事業1事業、道路事業3事業、河川事業1事業となっており、今回審議を行う事業は、沖縄北西部河川総合開発事業となっている。  
・事後評価は河川1事業(羽地大川羽地ダム建設事業)となっており、「ダム管理フォローアップ委員会」で審議予定となっている。

5. 審議

沖縄北西部河川総合開発事業(大保ダム、奥間ダム、比地ダム)

・対応方針(原案)に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

(委員からの主な意見)

大保ダムについては、事業の進捗を図られたい。

奥間ダム、比地ダムについては、引き続き必要な調査を実施し、関係機関との連携、地域の意見聴取等を行い、調査検討を進められたい。

### 【審議内容】

(委員) 沖縄では、水は非常に大切な資源であるということは理解しているが、一方で沖縄本島の北部地域では、これまでのダムの整備によって失われてきたものは大きかったことに留意すべき。そろそろ、どこまで人の便利さを第一に考えるのか見つめなおすべき時期に来ているのではないか。

比地川水系の河川環境を保全するための流量については、生物の生息環境から見た望ましい流量のあり方からの視点が重要ではないか。

(事務局) 流域の状況をよく把握した上で望ましい河川の姿を議論していく。

(委員) 今年は少雨傾向で貯水率が下がっている状況にあるが、ダムの供給能力の視点からの評価はどうなのか。

(事務局) これまで、水量を確保する施策を中心に進めてきたが、近年の降雨の変化に伴いダムの供給能力の低下が懸念されている。今後は安定的に供給を行っていく上でダムの供給能力についても検討していきたい。

(委員) 沖縄は、いまだ人口が増加しているし、観光客も増加している。増え続ける需要に対して供給能力がどうなのか示していくべきではないか。

(事務局) 現在のところ、これからどういう状況になるのか、具体的な見通しは持っていない。今後、沖縄県とも連携して調査検討していきたい。

(委員) 河川環境を保全するための流量については、ダム下流河川の環境が予測通りとなっていない場合があるため改善をすることが必要ではないか。

(事務局) モニタリングを実施し、必要に応じて改善等の措置を講ずるよう努めていきたい。

### 【その他】

(委員) 10年以上、給水制限が無かったこともあり、県民の節水意識は低くなっているので、節水意識を高める施策も必要である。

(事務局) 今後の公開のありかたについて、沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会運営要領第4条2項のとおり、報道機関を通じて公開としてよいか。

(委員) 次回以降も現状のとおりとする。